

前書き (ユニティ=一致)

この論文の目的は、1992年から「国際キリストの教会」として知られている家族教会の一致を確認し、さらに向上させることです。2005年9月、シアトルで行われた国際リーダーシップ会議において、わたしたち9名の兄弟が教会のユニティ提案を作成するためのグループとして選出されました。わたしたち9名が協力関係、一致、宣教を強めていくための提案をつくる任務を任されたという、明確な意識の上で、わたしたちはシアトルを去りました。

9名は様々な役割を果たしました。それぞれ違う地域で教会に仕えてきた経験が非常に活かされたと思います。その内4人は伝道者・長老として仕えてきました(マイク・フォンテノー、サム・パウエル、スティーブ・ステータン)。3人はアメリカ人ではない伝道者です(アンディ・フレミング:17年の経験を東欧やロシア、中近東で仕えてきました。フィル・ラム:中国・香港、ジョン・レイ:シンガポール、は10年以上アジアで仕えています)。2人の伝道者はアメリカ以外の国での豊富なミニストリー経験があります。(スコット・グリーン:中国で10年、マイク・タリファー:アフリカと南米で16年)。2人は現在、伝道者と同時に教師として仕えています(アンディ・フレミング、スティーブ・ステータン)。ほぼ全員は25年以上の弟子としての経験があります。

わたしたちは約6ヶ月間、ユニティ提案の作成に取り組んできました。最初の8週間に、世界中の教会からユニティについて約40の提案・意見を集め、復習しました。わたしたちのために御言葉の研究に時間を割き、考えと意見をまとめてくれた一人ひとりの兄弟姉妹に心から感謝しています。わたしたちも聖書を研究し、教会内または教会外から助言を求め、教会運営についての様々な本を読みました(その中の一冊:Perspectives of Church Government: Five Views of Church Polity—過去に実直な宗教家たちがいかにして同様の課題に格闘してきたのかが詳細に描かれています)。教会運営についての課題に格闘しているのは、わたしたちが最初ではなく、むしろ多くの人々が何世紀にも渡って葛藤してきた中の一部であることを知ることは、わたしたちの助けとなりました。それから祈り、そしてわたしたちのもとに送られた提案について話し合うために、11月14日—17日に集まりました。その後、聖書を土台にし、現在の教会のニーズを重視した上で、総合的な提案を作成することに取り組みました。

わたしたちは何世紀も残る文章を作る意図はありませんが、今現在と近い将来に対してのニーズを満たすものを作成するために、全力を尽くしました。この提案はもう既に様々な形で、多くの国々の200以上の伝道者、長老、教師、事務局、または教会員に読まれました。6大陸のクリスチャンたちから洞察と知恵が与えられました。ユニティ委員会は世界中の教会リーダーたちと数えきれないほどの話し合い、そして電話会議を開いてきました。わたしたちだけで作ったとは思いません。この提案のために、書き、電話し、意見を下さった一人ひとりに感謝を伝えたいです。皆の助けなしでは、これを完成させることは決して出来なかったでしょう。また、忍耐をもってこの提案への取り組みに集中させてくれた、自分たちの共同体にも感謝を伝えたいです。そして、この提案の成功のために、祈り、断食して下さった兄弟姉妹にも感謝を届けたいです。最後に、すべてを可能にしてください、わたしたちの神に感謝します。

この過程において、他の教会に関して意見する考えはありません。わたしたちの考えとは「わたしたちは唯一のクリスチャンではなく、ただクリスチャンである」ということです。この提案の目標は、同じ歴史と遺産を受け継いでいる500以上の教会の絆を強めることによって、天国への旅路を神への信仰によって共に歩み続けていくことです。付け加えると、初めはもっと短い文章になると考えていましたが、作成過程において明瞭さと充実のためにこれほどの長さが必要だとわかりました。

昨年9月以降、わたしたちの祈りは教会間の“完全な一致”です。それはイエスがヨハネ17:23において描いたような一致です。しかしながら、それと同時に、昇天時にイエスがゆだねてくださった使命に対して、教会のリバイバルが起こり、立ち返ることができることを祈り続けてきました。わたしたちの一致と宣教への献身は、今はまだ、すべての教会に受け入れられないこと、そして賛同しながらも提案を受け入れない教会もあることを

認識しています。そのような決断を理由に、その教会に対して性急な判断を下すことは不適切でしょう。わたしたちの目標は、過剰反応することなく過去の過ちから学び、聖書の原則に忠実にし、どのようにわたしたちの交わりが信仰強く、謙虚に、そして力強く前に進むことができるかを祈りによって熟慮することでした。

感謝を込めて

マイク・フォンテノー(伝道者・長老、ハンプトンローズ、バージニア)
スコット・グリーン (伝道者、シアトル、ワシントン)
フィリップ・ラム (伝道者、香港)
ジョン・ルイ (伝道者、シンガポール)
アンディ・フレミング (中近東ミッション伝道者、教師、ロサンゼルス)
サム・パウエル (伝道者・長老 ニューヨーク)
スティーブ・ステーテン(伝道者・教師 シカゴ)
マイク・タリファー (伝道者,サンアントニオ テキサス)
ブルース・ウィリアムズ (伝道者、ロサンゼルス)

ユニティ提案

この地上での神との歩みは旅路であり、わたしたちの目的地は天国です。わたしたちの目標は、神を愛し、神がわたしたちを愛してくださったように隣人を愛し、できるだけ多くの人と一緒にその旅路を歩むことです。主は既に、世界中のあらゆる国々と文化、人種からのイエスの弟子たちで作り上げられている、すばらしい教会の家族を与えてくださり、わたしたちを祝福してくださいました。

わたしたちの教会間の絆を強めるために、4つの部分について考えていただきたいと思います。その一つひとつには具体的な確信が内含されています。

一つ目に、わたしたちは「**神に属する者たち**」であり続けなければなりません。二つ目に、神の家族として、わたしたちは過去数年間で起こった出来事を正しく把握し、「**方向性の改善**」を行わなければなりません。3つ目に、「**教会同士で強め合い**」、「**キリストの体を造り上げてゆき、……成熟した……**」(エフェソ4:12-13)ものとなるためのニーズを見ていきます。そして最後に、悔い改めを呼びかける「**結論としてのビジョン**」があります。

まとめると、この提案は、以下のことを祈りによって熟慮することを呼びかけるものです。

- 謙虚さへの呼びかけ
- 共有する教義への呼びかけ
- すべての場所での健全な相互協力関係への呼びかけ
- 地域単位での“互い”の関係への呼びかけ
- 各教会の機能的なリーダーシップ構造への呼びかけ
- 世界中の教会を強めることへの呼びかけ
- リバイバル—確信、成熟した弟子訓練、大宣教命令—への呼びかけ

I. 神に属する者

しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。第一ペトロ2:9

あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。ガラテヤ3:26-27

以下に示す錨—わたしたちの謙虚さと一致した信仰が、神の民の家族の交わりを象徴すべき霊的な特徴であると思います。

謙虚さ

神の祝福のために、それがどんなに気高いことであろうとも、わたしたちの一致した謙虚さが他のどのような目的よりも先じるものでなければならないことを覚えていただきたいと思います。

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。エフェソ4:1-3

イエスに従っていく献身において、“完全にへりくだる”責任を受け入れます。それは一致と平和のための鍵となります:

- 神と御言葉に対する謙遜

- 意見が異なるときに相手を受け入れる謙遜(ローマ14, 15)
- 再考後に、いったん書いたこと、または言ったことを撤回できる謙遜
- 人の罪を責めることなく、自分の罪の告白によって満たされる謙遜
- 自分の全ての罪が赦されたように、他の人の罪を完全に赦せる謙遜
- わたしたちが目立たない僕でも、よく知られている弟子でも、過去にどんな役割や名誉があった者であっても、神の家の門衛となる謙遜
- 困難なときに、神が自分に何を教えてくださっているかを確認しようとする謙遜

謙虚さなしに、一致を促進させる提案はありません。聖書の中で謙遜と一致の最も強いつながりを見るのには、おそらくバベルの塔の物語とキリストが昇天した数日後のペンテコストでの歴史的出来事を比較することでしょう。意見として寄せられた中の一つに以下のような洞察がありました：

一つの例えとして、創世記11章では、人々が人間的な努力によって天まで届かせ、有名になろうとしたために、神は“シナルの平野”(後のバビロニア)の人々を散らされました。たった一日で、神は言葉を混乱させ、彼らを散らされました。彼らは高慢さによって一致を失いました。神が言葉を分けられたために、彼らはもはや一致することはできなくなりました。一致しようとしても、不可能になりました。神がその分裂を起されました。良い知らせは、神は不一致と混乱のシナルの呪いを、また一日でくつがえされたことです。言語の壁や文化の違いに関わらず、ペンテコストの日に神は彼の民を一致させました。創世記11章では高慢さが混乱と分裂が生じさせましたが、使徒2章では、神が祝福したために、一致と相互の理解の前に謙虚さが先行しました。

教会の初期には、十字架に架かったキリストのメッセージが調和を保ちました。イエスと共に歩んだ使徒以外には、イエスの弟子つまりクリスチャンであること以上の地位や権利はありませんでした。共同体におけるこの謙虚さは、革新的方法、大きな夢、長い論文、魅力的なウェブサイト、またはその他の人間的な業が、神のもとにある本物の栄光と競い始める前に起こったものです。十字架のメッセージが、そのようなすべての方法、表現、人間の努力を、駆り立て、新たにし、神の祝福をもたらすべきであるということです。価値のあることをするすべては、十字架のメッセージ(第一コリント2:2)によって、ひとりひとりが個人的に“心打たれ”(使徒2:37)た時に始まります。イエスの死、葬り、復活の福音こそが、わたしたちが初めて福音に反応した時も、1世紀においても、そして今もなお最も大切なことです。

以下の提案は完璧ではないことを、わたしたちの方から伝えます。物足りない部分、変えるべき部分、別の表現をすべき部分が、必ずあると思います。最終的には、主がわたしたちの祈りに応えてくださり、この努力を導き、建て直しを始めてくださることに信頼を置かなければなりません。何百時間もの祈り、研究、読書、話し合いそして編集の結果、また多くの方からの意見や助言によって、この提案がわたしたちの最善を尽くしたものであると心から言うことができます。今の段階ではこの提案にまとめられているものが最善に思われますが、わたしたちは皆、進行し学びながら、神によって導かれていく発展段階にあるものであることを理解しています。しかし、神がわたしたちを個人としても共同体としても導いてくださるために、わたしたちの旅路のこの段階において最も機能的と思われるその方向に、前進していくことが今は最善であると思います。

一致した信仰・教義

教会の家族として、わたしたちは既にキリストの性質と救いにおける神学的な一致をもっていますが、それを形づくりまとめる機能は十分ではありません。わたしたちの教会の献身的なメンバーで、わたしたちが最も大切なこと——第一コリント15:1-5において語られている福音、使徒2章の福音の説教により初めに受け入れられた救いの約束、またエフェソ4:4-6の必要不可欠な教義——の堅固な土台の上に立っていることを疑う者はいないでしょう。これらとその他の聖句は、彼の死、復活、昇天を通して、わたしたちをキリストに導きます。

初期のクリスチャンたちはフィリピ2:5-11、第一テモテ3:16、第一ペテロ3:18-22などの靈感された言葉を土台として原則的な声明文を形づくりました。彼らはそれらの声明文を用いて、バプテスマのときに真理を伝え、新しい信者を教育し、強める手紙を書き、神学的な取り決めをし、聖餐式の準備をし、異端から守るものを作りました。

教会史における迷路のような信条の増殖が、このわたしたちの世代に、核心となる真理を表すことをためらわせてはなりません。この真理こそわたしたちは守るべきです。この機会をいかして、長年共有してきた確信を明確に表します。ただし、これは新しい核心の教義を述べること、信条を作ることではありません。わたしたちの中には、あらゆる教義・信仰の声明文に対して、たとえそれが聖句からの正しい表現であったとしても、哲学的に違和感を持つ人がいることを理解することは重要なことです。(より詳しくは[Questions and Answers](#)を見てください。)

わたしたちの主であり救い主であるイエスキリストの十字架によって結ばれた兄弟姉妹として、神を愛し、称え、従順であることを熱望します。聖書が神の言葉であるわたしたちの信仰から、また主を喜ばせたい望みから、わたしたちはキリストにおける一致を見出していくことを願います。わたしたちの教義をよりよく伝えるため、“聖なる者たちに一度伝えられた信仰”(ユダ3)の神学的骨組みを明文化すること、キャンパスの時代から今日にいたるまで、神の動きを特に形づけてきた真理と強調点を再確認することに努めていきます。以下の概略は重要性と進行の順序を示しています。それは**神、福音、個人、そして共同体としての教会**です。

共有する信仰・教義の声明文

“わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。” ヨハネの福音書17:23

以下の聖書的な教義や共通した理想は、これまでのわたしたちの霊的な旅路を導いてきました。この声明文は、まず歴史上で最も重要であるキリスト教の本質から始まり、わたしたちがキリストに固く結ばれた者となるための共通した目標を示していきます。

神：父、子、聖霊

わたしたちは、天と地を創造し、人に命の息を吹き入れられた唯一の神を信じ、神に人生を委ねます。言によって世界を創造された神を礼拝し賛美します。わたしたちを罪から贖うために十字架に架かってくださった御子イエスを礼拝し賛美します。わたしたちの救いの証印である聖霊を礼拝し賛美します。

1. **わたしたちの永遠の目的** は神を知り、神として崇め、他の人々が神を見ることができるよう、人生を活かすことです。わたしたちの献身や最終的な忠誠は、すべてのものの上にあり、すべてのもの内におられ、すべてのものを通して働かれる天の父に、そして主であり救い主とされた御子イエスに、そしてわたしたちの内に宿り、罪を乗り越えられるために力づけてくださる聖霊に対してです。（使徒2：22-36、ローマ12：12-28）
2. **信仰のかなめ石**はイエス・キリストへの信仰です。わたしたちの信仰のすべては彼の言葉と人生を源とします。（ヨハネ3：16、ヨハネ12：47-48、第一ヨハネ2：5-6）
3. **聖書は霊に導かれた、誤りなき神の言葉です。**御言葉は、創造主からの言葉であり、すべての世代への啓示であるために、それが崇められ、研究され、説教され、教えられ、従順にとどまったときに、鋭く、力強く、効果的となり、戒め、心を明らかにし、そして励ましの言葉となります。（第一テモテ4：13、第二テモテ3：16-17、4：1-5、ヘブライ人4：12-13）

福音：神の業

キリスト教の最も重要な出来事は、福音書の終盤から使徒言行録の序盤の過越祭から五旬祭にかけて起きました。完全な神の子羊の、死、葬り、復活がわたしたちの信仰の根本です。ユダヤ人にとっての出エジプト記最初の20章（神が民を救い出し、シナイ山に導き、律法を与えた）と、弟子たちにとってのエルサレムでの出来事はほぼ同じ意味合いを持ちます。多くの人々は贖罪、“主であり救い主である”イエスの復活の目撃者であり、“遠くにいる人々”をも含むすべての人への約束を耳にしました。

4. **わたしたちの救いは、すべて神の働きのみによるものであり、神御自身の慈しみと恵みによってなされ、わたしたちの業によるものではありません。**その働きは、福音のメッセージを聞き、信じ、従い、神の力を信じバプテスマを受け、その死まで忠実にとどまり続ける者を贖います。（ローマ2：7、使徒2：22-37、エフェソ2：8-10、コロサイ2：12、ヘブライ10：32-39、ヤコブ1：12）

5. **わたしたちのこの世での使命は**、イエス・キリストの福音を世界中に広める「失われた人を探して救う」**大宣教命令**への参加です。わたしたちがその使命を続ける中で、わたしたちの証しは、他のクリスチャンや世界中の教会に善い業や支援、励ましを与えるキリストのような人生に密着したものでなければなりません。また、イエスの宣教活動に倣い、苦しんでいる人々の重荷を軽減するために継続的な憐れみを示すことや、ホープワールドワイドや他の慈善活動グループを援助することによって、貧しい人々のことを覚え続けていきます。(マタイ28:19-20、使徒10:37-38、コロサイ3:1-6、ルカ19:10、ガラテヤ2:10、ヤコブ1:27)
6. 神を愛し、互いに愛し合い、そして失われた人を愛する、**わたしたちの動機は**、わたしたちに対する神の愛に駆り立てられているものです。その愛は、わたしたちのために死んでくださったイエス・キリストの十字架によって最高の形で表されました。(第一コリント5:14-21、第一ヨハネ3:16、ルカ10:27)

個人的な反応：神の子としての委ね

イエスの弟子として、わたしたちは主に人生を委ねます。わたしたちは神の子としての受け入れを喜び、それぞれが聖なる者となり、イエスの模範に従っていくよう召されています。

7. **わたしたちの回心** は、イエスが神の子であり、その死と死者からの復活を信じることから始まります。その後続く段階としては、明らかな罪の悔い改め、イエスを主とすること、そして「私の主はイエス」という告白があります。最終的に、罪の赦しと神が聖霊の賜物を与えてくださる約束のために、浸礼における新生の奇跡の時に、わたしたちはクリスチャンになります。(ヨハネ20:31、ルカ14:25-33、使徒2:38-41、ローマ10:9、テトス3:3-5)
8. **個人的にイエスを主にすることは**、すべてのものの上であり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられる父への売り尽くされた献身から始まります。そのためには、キリストが提示した条件を理解し、彼の主権に委ねること、自分を捨てる日々の決心、そして最後まで忍耐し続けることが必要です。(ルカ9:23,14:33、ローマ2:7、ガラテヤ6:9)
9. 日々の生活における**わたしたちの聖性**は神様からの掟です。バプテスマを受けた時から、わたしたちは世と世の生き方から離れ(聖化)、神の聖なる者として生きるように召されています。(エフェソ1:1、エフェソ2:1-4、1テサロニケ4:3-8、1ヨハネ2:15-17) 聖性の思いから、クリスチャンのロマンス関係と結婚関係は聖書に定義されている「神に属する者」とされる人のみと行われるべきです。(第二コリント6:14-7:1、第一コリント7:39)

共同体としての教会：交わりをもち、強め合う

体の一部として、わたしたちは、キリストの死に預かり、罪の完全な赦しや聖霊、新しい命がもたらされる、水による浸礼によって結び合わされました。新しい命とは天国への希望であり、天国における永遠の命の賜物です。また、教会の体そして神の家族——イエスのようになることを助けてくれる共同体——の一員であるための献身です。

10. **それぞれの教会の会員** はバプテスマを受けた弟子たち、神が要求する聖なる者としての人生を生きる約束をした男女によって成り立っています。会員の一人ひとは、創造主に対してだけでなく、教会の身体に対しても献身的であることに賛同します。それは心を尽くすことを意味します。例えばそれは、体の集会に出来るだけ参加し、喜び、注意、戒め、励ます“互い”の関

係を求めていくことです。それは互いに愛と善行に励むように心がけることです。(使徒2:42、ローマ12:10、ヘブライ3:12-13、10:24-25)

11. **わたしたちの共同体の礼拝**は御言葉、祈り、交わり、そして共にパンを裂き、ぶどう酒を飲む神聖な式としての、毎週のキリストの分かち合いである**主の聖餐**を含みます。一世紀の弟子たちに倣う共同体として、わたしたちは、香ばしい献げ物そして感謝のしるしとして、**心から喜んだ犠牲**を神に献げます。わたしたちの人生に与えられたものはすべて神からの贈り物であるため、わたしたちは喜んで犠牲を払った献金をお返しし、それによりイエスの働きがわたしたちの共同体で、また世界中で前進するでしょう。(使徒2:42-47、第一コリント10:17-34、第一コリント9:7-14、フィリピ4:14-19)
12. わたしたちは、他の女性たちを伝道してバプテスマを授け、教え、カウンセリングし、トレーニングするという必要不可欠な奉仕をする**女性たちを、教会が奨励することを信じています**。姉妹達はさらに、自分たちの影響は兄弟たちの人生にも必要であることを認識しています。(第一コリント9:5、テトス2:3-4、使徒18:24-26、ローマ16:1-15)
13. 教会の**意思決定**の責任は個々の教会にあります。同時に教会間の関係を継続し、教会同士も個人的にも他の教会と関係を持ち続けます。関係を強く求め、与え、他の教会からの助けと霊的な影響も受け取ります。
14. 教会内、そして教会間の**コミュニケーション**はいつも誠実であり、敬意を表するものであり、意図的に挑発するものではないけません。聖書的なリーダーシップの権限の重要性を強調します。牧者(長老・伝道者)はニーズを満たして教会を造り上げること、教会を守るために教会規律(チャーチ・ディシプリン)を行使することの責任があります。(第一ペテロ2:17)
15. **成熟した者同士の摩擦的な関係の和解**は、わたしたちの教会にとって優先的なことであり、時には自分たちの教会外からの助けが必要とします。わたしたちは聖書に従い、ゴシップや中傷することを罪とみなし、霊的な摩擦的な関係の和解に努めていきます。(第一コリント5:1-13、6:1-8、フィレモン)

II. 「方向性の改善」

わたしたち教会の家族が共にとどまり続けてこられたことのゆえに、わたしたちは神を賛美します。神こそがわたしたちの感謝に値すべき方です。そして、神と互いに対しての忍耐と献身し続けてきた、数え切れないほどのクリスチャンたちは尊敬に値します。何年にもわたって、わたしたちは、もし聖書から離れるようであれば悔い改め、御言葉に戻るといふことを、公にも個人的にも表明してきました。父として、わたしたちを愛してくださり、鍛錬してくださる神を賛美しましょう。わたしたちは、神からの鍛錬を受け入れ、義と平和の収穫を追い求めている兄弟姉妹のことを心から感謝しています。(ヘブライ12章)

過去3年間の危機と回復、そしてそれに伴う解決は、多くの反応、そして多くの機会を生み出しました。ある摩擦的な関係解決の専門家が、わたしたちの教会のリーダーシップにこのように伝えてくれました。“現状が新しい構造になる前には、教会文化を再考し再発展させる素晴らしい機会があります。その期間が5年を過ぎてしまえば、その機会を生かすのは手遅れになってしまうでしょう。” わたしたちの交わりに関わることとしてもその専門家の意見に、わたしたちは賛成しています。ユニティ提案グループが選出されたことは、ほとんどすべての教会が、わたしたちの中で起こった反応が自分たちを定義づける前に、研究し、祈り、熟考し、決断するニーズがあると感じていることを示しています。今の段階ではこの提案にまとめられているものが最善に思われますが、わたしたちは皆、学び進みながら、神によって導かれていく発展段階にあるものであることを理解し

ています。しかし、神がわたしたちを個人としても共同体としても導いてくださるために、わたしたちの旅路のこの段階において最も機能的と思われるその方向に前進していくことが、今は最善であると思います。

過去に対して多くの意見が起りました。そして、これから先も熟考し続けることも非常に価値あることとなるでしょう。今わたしたちは、わたしたちが何に対して立っているかではなく、何の上に立っているかによって自分たちを定義づける特別な機会を持っています。方向の改善が最も行われるべきことには、最近の過度の独立の改善、教会の目的の曖昧さを乗り越えること、地域教会間の絆を強めること、個々の教会のリーダーシップ構造を向上させることなどです。

相互協力のために独立を捨てる

過去3年間の中で、わたしたちの交わりにおいて目に見える形での最も大きな変化は、おそらく教会間の関係においてでしょう。わたしたちは突然、明瞭で、しっかりとした、世界的な構造を持つ組織から、様々な段階での霊的な健全さ、リーダーシップの型、独立性を生み出す、バラバラな教会の群へと変化しました。一世紀の教会の模範に照らし合わせてこの点を強調した、過剰-単立をいう記事を1月30日に作成しました。その記事の中で以下のような洞察を示しました。

わたしたちは、一致とは大部分が、謙虚さと関係についてであり、いくつかの信念ではないことを知っています。新約聖書では、行き詰まりが生じたとき、問題を解決するための、教会と評判の良いリーダーたちに強い絆があり(1コリント4: 14-21、2コリント13: 1-3)、教会を越えた問題に答え(使徒15: 1-5)、または広範囲のニーズに協力しました(ローマ15: 25-29)。これは一般的につながり、または相互協力と呼ばれます。

多くの変化は確かに必要でした。しかし性急な反応により、わたしたちは多くのつながりを失う損失を被りました。この損失は、失望させられる事実の発覚、間違った情報、強い組織的な支配により押しつぶされてきた緊張の表面化など、多くは人間的なものの衝突に端を発するものでした。結局このことが、教会のリーダーたちが他者からの独立を高らかに宣告し、そしてまた今度は彼らが導いた人たちが独立を高らかに宣言するのを導いたことがわかります。この“自由”がガラテヤの人々の罪の反復を許可させてしまい、パウロは厳しく戒めたのです(ガラテヤ5:13)。聖書的な自由を取り戻す必要があります。この自由とは、知恵を求め、他のクリスチャンや他の教会に対するわたしたちの選択を熟考することです。

目的を明確にする

教会の使命または目的に関してよく見られる混乱は、わたしたちのみのことではありません。現代のキリスト教は体験と礼拝というものを過度に強調する傾向を持ち続けてきました。わたしたちの交わりでは、使命と目的との間に区別をもうけないようになってきました。そして、伝道の過度の強調に対して、霊的な成長、牧会などは低く評価してきました。再評価をする今このときに、我々の中には現代の教会の風潮、主流の考え方、人間的な文化への招きの迷路の中で迷い始めている教会があります。わたしたちが誰であるのか、そしてわたしたちの使命に対する明確な理解がなければ、わたしたちはますます、迷っていることを認識することなく、不信心な環境からわたしたちの方向性を選んでいくことになるでしょう。

時代を通して、神は民に対して彼のもとに、そして彼の御心に立ち返るように、絶えず呼びかけ続けられました。わたしたちの神から与えられる聖書の目的と使命を定義することは、わたしたちを健全な教会の家族へと導くでしょう。わたしたちの永遠の目的とこの地上での使命は、教義・信仰の声明文では区別されています。主な区別は、わたしたちの目的は神を知り、その学びを示していく人生についてであるのに対し、使命とはイエスの福音の様々な面への参加に関することです。現代の哲学がわたしたちをとりこにしないこと(コロサイ2:6-8)を常に確認し、自分たちの優先すべきことを再考することは特に重要なことです。なぜなら、わたしたちの最善の見方は神の意思の中での生きた経験の中から来るものだからです。わたしたちの教会が確かに“キリストに根を下ろして造り上げられた”(コロサイ2:6)時に、“あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中

至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。”と言われることでしょう。コロサイ1:6

教会における地域的パートナーシップ

“あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師……”(1コリント12:27-28)。神は教会というものの特性を家族として、また体として描写しています。それゆえわたしたちは、ただ個々の教会だけではなく、成長し成熟し、神に栄光を返していく一つの体として、教会というものを見なければなりません。それでは、このより大きなキリストの体は基本的な協力と機能においてどのような姿であるべきでしょうか。わたしたちは、家族また体の聖句の比喩が実現すべきであることを、最低限知ることができます。

このように見ていながら、地域の教会の中で弟子たちを養っていく原則と命令は、同様に教会同士においても真実であり不可欠なものです。過去の経緯において、ピラミッド型組織はしばしばこの真理の障害となって、教会の成熟を妨げました。今では、わたしたちの以前の組織構造——様々な段階において互いを孤立から守るということに対する反応によって、この真理は妨げられてきています。これらの両方の極端さは教会メンバーが理解すべき——教会というものが抱えている一般的なニーズを、自分たちの外からの客観的な洞察または助言によって満たせるということ、認識させなくしています。そのことはわたしたちの個人的な人生にもそして私たちの教会にも適用されます。わたしたちはキリストのようになるために(1コリント12,13;エフェソ4;ヘブライ3:12-13)、教会の中においても、教会同士においても、互いが必要です。

健全な家族として、一つひとつの教会は自分たちの決断における責任によって、生まれ、育ち、成熟させられるべきです。しかしながら、健全な家族として、どんなに年長であっても成熟であっても、“お前は要らない！”(1コリント12:21)と、教会は誇って言うべきではありません。その逆に、体として力と賜物をつなぎ合わせることは、境界がないことを知るべきです。それは特に、過去の絆によるつながりを持つクリスチャンたちにとってのことです。エフェソの4章と1コリント12章の両方の精神において、それぞれの教会は、決して他から孤立した自給自足になることなく、自分たちの成熟と決断において最終的な自己責任を持つべきです。そのため、少なくとも以下のことに、わたしたちは献身します。

1. わたしたちの教会のリーダーもしくはリーダーシップグループ(長老、伝道者、執事などを含む)は、御言葉の実践、弟子訓練の成熟のために自分たちの地域的、もしくは過去のつながりにおける他の教会のリーダーシップに謙虚にそして定期的に関係を築くことに賛同します。そしてそれは、互いに励ましあうことであり(ヘブライ3:13)、互いに研磨し合うことであり(箴言27:17)、そして互いに愛と善行に励むように勧めることです(ヘブライ10:24)。多くの教会同士の地理的な家族の関係は、過去数年間の中で他教会との関係の発展過程において、すでに現れてきました。またそれ以上に、各教会が、地域規模でのイベントを通じてまたカウンセリングや助言のために他のリーダーたちを自分たちの教会に招くことによって、自分たちの地域もしくは関係のつながりのある他の教会との交わりを奨励することに賛同しています。
2. 地域的な話し合いさえ越えてしまうニーズがあります。そのようなニーズが起こったとき、適切にニーズに取り組むため、地理的な地域からの代表者(2コリント8:23)を送る必要があるでしょう(年一回のリーダーシップ会議、ミッションサポートなど)。

地域区分の基準

キリストの一つの体が一つの教会以上で成り立っていること、“一切高ぶることなく”(エフェソ4:2)、“霊による一致を保つように努め”(エフェソ4:3)のように命じられていることを理解していることから、わたしたちは、“互いに”の聖句に従う心を持って、他教会のリーダーシップとの互いの弟子訓練、また責任に献身します。わたしたちが認識しているのは、現在持っているもしくは過去に共に働いてきた歴史的経緯を持ってきたことで、そ

のような教会のリーダーシップがもう既に多くあるということです。また、受け取るべき財政的また霊的援助のために、アメリカ内にある特定の教会とつながりを持つ教会のリーダーシップも多くあります。

それぞれの教会は自分たちの地理的な地域グループの一部になることを十分に考慮するよう期待される一方、すべての教会のリーダーシップは、その高める関係に基づいて、どのグループの一部になるかを決断するのは自由です。ほとんどの教会は重要なこととして近接する他のリーダーシップとのつながりの益を考慮するでしょうが、正当なもしくは妥当な理由により、自分たちの地理的に遠隔な地域グループに参加する教会のリーダーシップもあるかもしれません。現在、互いに励ましあうために共に機能している31の教会の“家族”があるように思われます：

(現在あるもしくは可能性のある地理的な区分の表が、次ページにあります。この表は今我々が持っている最新の情報を元に、最善を尽くして編集されたものです。どうか参考以上のものとしては見ないでください。教会がつながらなければならないというような地域的グループを指図する意図は、そこには一切ありません。)

地理的区分	教会数	メンバーシップ
米国西南部／韓国／モンゴル／ハワイ	23	10413
メキシコ／中央アメリカ	33	8054
フィリピン／ ロッキー山脈	20	5594
東南アジア	35	5460
インド	51	4931
米国東南部	16	4518
南アメリカ	26	4484
米国南部	13	4477
ニューヨーク	7	4589
ウクライナ／中央ヨーロッパ	19	4323
ロシア西部／カフカス／中央アジア	14	4030
元コモンウェルス(イギリス連邦)	23	3900
アフリカ西部旧フランス領	20	3478
ニューイングランド	9	3377
アフリカ西部	16	3327
中国	20	3298
米国中西部	8	3199
南アフリカ	18	2857
カリブ海	19	2466
テキサス	12	2179
ヨーロッパ大陸	31	1955
ロシア東部／ウラル	14	1742
米国北西部／カナダ西部	15	1725
アフリカ東部	8	1644
中央／東カナダ	10	1357
イギリス	21	1245
米国中部	12	1220
オーストラリア	12	815
中近東	16	443
未定	5	2522

わたしたちが共に前に進み始めるために、神が将来への必要な変化に導いてくださることを信じ、すべての共同体のリーダーシップグループが、これらの31の地域的な弟子のグループの一つに参加することを奨励します。この提案の教会のリーダーシップの承認とは、それらのグループのひとつの活発な一部となることを意味します。これらのグループの中にはもうすでに年に1,2回、共に集う益を見出しています。継続的なかつ定期的なコミュニケーションに加え、互いの向上、リーダーシップのトレーニングまたは援助、一致を継続するために、教会のリーダーシップがそれらの地域的なグループにおいて年に1度か2度、集う努力をすることを勧奨します。

繰り返しますが、いくつかのグループが変更になること、そしてあるグループが他のグループと合併することを選ぶことさえも、確かに可能です。決定に関する継続性を安定させるため、そのような国際的な話し合いのために、候補として出すグループの総数は現在の31個までに限ることが、今この時には最善と思われる。何かしらの新しいグループが発生したときには、代表者を出して、30個のより大きな地域の一つと協力することになるでしょう。

リーダーシップチームの構造

教会としての段階において、聖書的なリーダーシップの役割と職務を研究し、分類してきたように、わたしたちは気をつけて、過去の過ちを意識的に変えようと努める一方で、不注意によって機能しないリーダーシップを受け入れてしまうのを避けなければなりません。リーダーシップの型がどういったものであれ、教会はよく機能し、賢明に導かれていかなければなりません。そして、この機能するということが必然的に意味することとは、最終的に、教会は成熟さにおいても数においても成長するということです。

このことを成し遂げるために、わたしたちの型、構造、そして肩書きは、神がメンバーシップとリーダーシップにお与えになった様々な賜物(ローマ12:3-8)が最善に用いられることを、決して邪魔してはなりません。もしわたしたちがこの点を見落とすのであれば、役職の形態も長老、伝道者、執事、教師もしくは他のリーダーの形態も教会に健全さと賢明さをもたらすことはないでしょう。

世界が変わるように同様にわたしたちの交わりも成長し、この提案の要素は、神が将来聖句を通してわたしたちに示してくださることに従って、継続的に見直され、成熟させられていく必要があります。わたしたちの文化における変化はいつも予想できるものとは限りませんが、地域的なつながりと機能性のあるリーダーシップチームは共にそういった変化を歩む手助けになるでしょう。(付加している記事、[Effective Leadership](#)を見てください)

III. 教会を強める

“そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。”エフェソ4:11-13

聖書は、ほかの地域からのクリスチャンを通して教会を強める、力強い模範を与えています(使徒言行録14:22, 15:32, 15:41, 16:5, 18:23)。使徒たちだけがそれらのニーズを満たした人たちではありません。1世紀の弟子たちと同じニーズは今日のわたしたちにはない、と信じることは、謙虚であると言えるでしょうか。わたしたちもまた、それらのニーズを満たせる信頼できる人々を必要としています。さらに、わたしたちの宣教活動を、よりしっかりとコーディネートし強める、大きなニーズがあります。また、ユース、キャンパスそしてシングルミニストリーの再生はわたしたちの将来の交わりにとって非常に重要なものとなるでしょう。

地域の代表者

誰が、もしくは何がわたしたちの教会を助けてくれるでしょうか。世界の多くの場所では、私たちの教会の多くが最近、尊重を示し、その霊的品性、モラル基準また才能によって推薦された、尊敬されて成熟したクリスチ

ヤンから助けを受けています。彼らは使徒言行録15:22の“ユダ(バルサバと呼ばれる)とシラス”、バルナバ、テモテ、エパフロディト、テトスまた他の人々のように仕えています。もちろん、彼らは権威ある地位を握っていたのではなく、もともと、たいいていはその地域による、教会からの推薦であったでしょう。

誰が、それ以外のわたしたちの教会の国際的な家族の関係をコーディネートする代表者になれるでしょうか。ちょうど大家族が家族の集いを計画するのに、その幹事を指名するようになど、限られた数の人がわたしたちの教会を代表することができます。地域区分はこのことを成すのに助けとなります。地域の代表者が、おそらく一年に一度、わたしたちの交わりの共通のニーズを助けるために集まるでしょう。そのようなニーズの多くが、このユニティ提案の作成過程の中で現れてきました。以下のようなものが含まれていました。

- 教会設立と基金
- 伝道者、長老、宣教師の継続した教育／トレーニング
- 和解と摩擦の解決
- インターネットによるコミュニケーションの基準
- 傷ついている、もしくは弱っている教会への助言
- 運営(アドミニストレーション)の基準
- 牧師のいない教会、また教会のない牧師への助け
- ユース、キャンパス、シングルへのいっそうの取り組み
- 貧しい人々の助け、災害の癒し、ホープのコーディネートまたその他施しの先導
- わたしたちの交わりの名称変更の可能性
- 教会規律のさらなる研究など

これらの事柄は、適格で推薦された人々が課題を選択し、分類し、推奨される解決方法を提供することでまとめられるでしょう。これらの課題のほとんどがこのユニティ提案グループの範囲を超えていました。

地域を越えて話し合うべき課題としてのニーズが起こったときは、国際的な会議が召集され、シンプルに大多数のグループの意見によって決断されるでしょう。もしそのような集まりが召集されるならば、それぞれの地域グループはグループごとに2人の任命された代表者を送ることができるでしょう。2000人を越える数のメンバーシップを代表するグループは、1000名ごとに一人追加で代表者を送る、選択をもつことができるでしょう。(これは101人の国際的な代表者になることを意味していて、その内3分の2は米国の外からの代表者です。)

宣教活動のコーディネーション会議

“この奉仕の業が実際に行われた結果として、彼らは、あなたがたがキリストの福音を従順に公言していること、また、自分たちや他のすべての人々に惜しまず施しを分けてくれることで、神をほめたたえます。”2コリント9:13 疑いの余地もなく、わたしたちの短い歴史の中の最も励ましとなる面のひとつは、宣教への心を尽くした献身です。わたしたちは、たとえ過去数年間の困難と変化を通り過ぎて、私たちの教会の大多数が、宣教に対する鮮明で、はっきりとしたフォーカスを持ち続け、引き続き世界が伝道されるようにサポートを与え続けていることに、神を賛美します。

最近では、8つの宣教組織の任命された指示を通して、またそれと同様に、援助する教会がある特定のミッション教会と直接的な組み合わせを持つことで、わたしたちは160カ国以上の宣教活動を援助しています。援助している教会と援助を受けている教会との強い関係そして相互理解の重要性を考慮して、わたしたちは先立つ年1回のリーダーシップ会議では、丸一日を宣教一必要な報告の分かち合い(グッドニュースや闘い)、聖書の指示、共働の交わりに捧げることを提案したいです。

援助している側の教会の参加が増えることで、進んでいる活動の成功を学んだり、新しいアイデアを交換したり、失われた人々を救うより大きなビジョンを動機付けられることで、このやって来る時間への献身は信じられないほどの益と生産的なものとなるでしょう。

結論としてのビジョン

“およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。” ヘブライ 12:11

神はわたしたちの教会を祝福し続けてくださっています。彼は教会の家族を守ることによって、子供を育てるようにわたしたちを訓練することによって、また、火によって試し成熟させることによって、その愛を示し続けてくださっています。悪魔はある瞬間、有利な立場を取りましたが、最終的に勝利者となることはないでしょう。わたしたちは通り過ぎてきたこれらの時に多くの感謝があります。わたしたちの悔い改めの反応に、正しい者の収穫と共に栄誉を与えると神は約束してくださいました。

何万もの聖なる者たちが、ほとんど尋常でない状況のもと、キリストの名に対する真実を守り、とどまり続けました。年長のリーダーたちのほとんどは彼らの過ちを背負い、公に悔い改め、勤勉に仕え、わたしたちの間にとどまり続けています。嵐の間、多くの若いリーダーたちはそのギャップに立ち、他の者がしたことに対する責めを受けました。様々な役割を持っていた多くのクリスチャンたちが、その火の嵐の中、間違いを認めることが“安全”ではなかったときにさえ、すぐに、心からの悔い改めをしました。もちろん、他の人たちにとっては、より多くの時間を必要としました。勇敢な宣教師たちは彼らの母国に戻り、しばしば、ほとんどもしくは全くの無一文で新しい人生を始めました。新しく形づくられた長老制や多くのスタッフでないリーダーたちは、そのような時に、キリストとその教会のために、多大な重荷を担いました。異なる様々なことが動き、ミニストリーを見直し、変化は突然起こり、わたしたちの教会の品性と心は試されました。これらの振り子が振れた中、揺るぎない声を上げ続けてきたすべてのクリスチャンの兄弟姉妹は、わたしたちの賞賛に値し、いつの日か神からの賞賛を受け取るようになるでしょう。祈りによって、激変の中、誤解された多くの人々が再びわたしたちの交わりに戻る、もしくは回復することを、わたしたちは見えています。

嵐は過ぎ去りました。わたしたちは神からの鍛錬を認め、祈りによって将来の嵐に対して賢明になろうとしてきました。今もなお津波やハリケーンへの援助をしている人々のように、今わたしたちは前に進み、再建しなければなりません。霊による平和の絆はわたしたちを一致させ、心を尽くすことに駆り立てます。わたしたちの絆を固いものとする一つの確かな方法は、わたしたち一人ひとりが唯一の主に従順に生きるように努めていくことです。同じことは教会にも真実です。

さらなる悔い改め

このユニティ提案は、教会同士の関係、そして弟子同士の関係を深めるだけの呼びかけではありません。教会の交わりとして、わたしたちが継続した悔い改めの必要性を認識する時でもあります。聖霊はわたしたちをキリストのように形づくり続けてくださり、わたしたちは変わり続けるでしょう。

私たちが成長し成熟しなければならない明白な点の一つは、失われた人々を捜し、救うことです。わたしたちの主は自分自身が“失われたものを捜して救うために来た”(ルカ19:10)と言われました。彼の情熱と宣教を倣うことなしに、どのようにわたしたちは彼に倣っていくことができるでしょうか。DisciplesToday.netでは、わたしたちの教会がこの約10年間で段々と伝道が少なくなっていることを示しています。多くの教会は数としては、この7,8年間成長していません。わたしたちの日々の歩みで、キリストを体験することは非常に重要ですが、キリストを言い表すことも同様に大切です。どちらも成熟さと宣教に関わってきます。わたしたちはただ神を知

ることはできません。同様に彼を知らせる必要があります。それは共にイエスの命令と模範です。それは確かな一世紀の教会の模範です。明らかに、数的な成長の不足は成熟さのしるしではありません。

多くの教会においては、憐れみの心の成長、愛する動機へのより大きなフォーカス、備え、靈感よりも、むしろ、人の責任への行き過ぎた依存と、数とスタッツへの過度のフォーカスを持ってきたことは事実です。これは、聖書の中に成果を記録している箇所がないと言っていることではありません。教会や地域が数においてどう発展していたかを示している多くの聖句があります。しかし、それをキリストの十字架の代わりに、最優先の動機付けの手段として用いられるように帰すことはできません。道のりを正しながら、わたしたちは大胆に事実と直面しなければなりません。今日、わたしたちは福音を宣べ伝えるのに、実際に行き詰っています。わたしたちの教会の多くは、宣教に対して危険なほど、なまめると停滞に近づいています。大多数がそのような状況の中で、成長している教会もあります。これは変わらなければなりません。すべての教会が失われた人を捜し、救う課題に正面から直面し、すべての弟子たちが漁師である聖書の模範に、運動体として立ち返りましょう。成熟した教会として、人にただバプテスマを授けるだけでなく、彼らを教え、信仰において成熟し、聖霊の実を結ぶよう助けましょう。

わたしたちは御言葉の宣言によって十字架に動機付けられ、愛に駆り立てられることに直ちに立ち返るよう、提案します。一人の兄弟がこのようにまとめました。“わたしたちは神中心で始め、それから人間中心になり、そして自己中心になって終わる！”初めのころの行いと悔い改め(黙示録2:5)を思い出しましょう。わたしたちが十字架を真の中心にしたときに、わたしたちがまだ見えていない感謝、恵み、赦しそして愛の深みを味わうことになるでしょう。神ご自身がわたしたちを赦してくれたように、自由な赦しの心を広げて、すべての苦々しさと悪意から離れて、一つの教会の家族として、このときをつかみましょう。一時的な悔い改めを経験するのではなく、悔い改めの文化を造り上げましょう。

わたしたちは過去3年間で、とてつもない変化してきました。教会の家族として、すぐに物事の悔い改めをしてきました。もう一度、祈り、断食し、悔い改め、赦しそしてキリストを世界に知らせることに再献身しましょう。わたしたちは2006年3月29日を、わたしたちの悔い改め、赦し、一致、発展のための世界中の断食と祈りの日にすることを提案します。悔い改めとわたしたちが“愛をもって互いに忍耐”(エフェソ4:2)することなしに、一致はありえません。その時、悔い改めによって、わたしたちの魂と神が救う人々に悔い改めがもたらす、約束された癒しを楽しむことができます。(使徒3:19)

“忍耐と慰めの源である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、心を合わせ声をそろえて、わたしたちの主イエス・キリストの神であり、父である方をたたえさせてくださいますように。”ローマ15:5-6

ローマのクリスチャンたちへのパウロの言葉は、唯一神だけがわたしたちに確かな一致をあたえてくださるということ思い出させてくれます。わたしたちの役割は、神がわたしたちに与えてくださった一致が続くように努めることです。すべての人はその家族の中で一致を望みます。しかし、すべての人が喜んで自分をへりくだらせ、自分自身の罪の悔い改めに集中し、自分が赦されて自由になったように完全に赦すことをするわけではありません。

わたしたち一人ひとりが神の家族の中に受け入れてもらったことに、謙虚に感謝を示すことができますように。神の民として、互いに学びあう謙虚さとオープンさを持って、変化に対して霊的な反応をして、互いに再献身できますように。わたしたちは継続的に互いに強めるべきであり、それによって、わたしたちは、自分たちを助けてくれている人々のように、イエス・キリストの福音と共にこの失われた世界に効果的にそして力強く、行き届くことができるようになります。わたしたちが皆、その旅路を終え、天国で共に永遠の時を過ごすその時まで。---この提案の理解のさらなる助けのために Questions and Answers を見てください。

注;

i Chad Owen Brand and R. Stanton Norman, eds, *Perspectives on Church Government: Five Views of Church Polity* (Nashville: Broadman and Holman, 2005)